

環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）交渉をめぐる政府・与党の調整は、参加の判断を先送りして決着した。参加に前のめりの政府を土俵際で押し戻したのは、鹿野道彦農相や「TPPを慎重に考える会」を設立した山

田正彦前農相らの粘り腰と、民主党内で奮闘した新人の農林議員だった。ただ、参加論を主張するのは仙谷由人官房長官や前原誠司外相ら政権の主流派で、党内基盤がまだ弱い新人の農林議員には厳しい戦いとなった。

政府・与党
TPP攻防

慎重派・農林議員

推進派・凌雲会

新人奮闘、重鎮粘り

「TPPへの参加検討は、党代表選でみんなが選んだ菅直人首相が決めたことだ。政府に逆らうのか」「党はリーダーの指示に従えないのか」
民主党のAPPEC・EP A・FTA対応検討プロシ

「TPPへの参加検討は、党代表選でみんなが選んだ菅直人首相が決めたことだ。政府に逆らうのか」「党はリーダーの指示に従えないのか」
民主党のAPPEC・EP A・FTA対応検討プロシ



TPP交渉への対応をめくり推進派と慎重派が激しい論戦を繰り広げた民主党の経済連携に関するPT（東京・永田町の衆議院議員会館で）

推進派の中核を担ったのは仙谷官房長官を会長とする同党の政策集団「凌雲会（りょううんかい）」で、前原外相や枝野幸男幹事長代理が政策面のリーダーを務める。新人の農林議員らは

「TPP参加を止められないかもしれない」という弱気を吹き飛ばしたのは「1億2000万人の国民生活と食の安全を担っている」とある新人の農林議員の自負だった。小平忠正衆院外務委員長や川内博史氏（鹿児島）、首藤信彦氏（神奈川県）らの重鎮や中堅議員が新人議員の奮闘を支えた。

「TPP参加を止められないかもしれない」という弱気を吹き飛ばしたのは「1億2000万人の国民生活と食の安全を担っている」とある新人の農林議員の自負だった。小平忠正衆院外務委員長や川内博史氏（鹿児島）、首藤信彦氏（神奈川県）らの重鎮や中堅議員が新人議員の奮闘を支えた。

農政
ウオッチ

持ったことで、政権担当能力のある政党に大きく近づいた」と胸を張った。

「TPP参加を止められないかもしれない」という弱気を吹き飛ばしたのは「1億2000万人の国民生活と食の安全を担っている」とある新人の農林議員の自負だった。小平忠正衆院外務委員長や川内博史氏（鹿児島）、首藤信彦氏（神奈川県）らの重鎮や中堅議員が新人議員の奮闘を支えた。

「TPP参加を止められないかもしれない」という弱気を吹き飛ばしたのは「1億2000万人の国民生活と食の安全を担っている」とある新人の農林議員の自負だった。小平忠正衆院外務委員長や川内博史氏（鹿児島）、首藤信彦氏（神奈川県）らの重鎮や中堅議員が新人議員の奮闘を支えた。

「TPP参加を止められないかもしれない」という弱気を吹き飛ばしたのは「1億2000万人の国民生活と食の安全を担っている」とある新人の農林議員の自負だった。小平忠正衆院外務委員長や川内博史氏（鹿児島）、首藤信彦氏（神奈川県）らの重鎮や中堅議員が新人議員の奮闘を支えた。

しかし、TPP参加に前のめりの政府の姿勢が変わったわけではない。民主党の渡部恒三最高顧問は4日に行われたTPPを慎重に考える会で、「政府があつて与党があるのではない。与党があるから政府があるのだ。TPPのような大きな問題で政府が先行するならば、政党政治ではなくなってしまう」と述べ、政策決定の手順の危うさに苦言を呈した。

ただ、政府が党の提言を尊重しなければこの試みは挫折する。全会一致の政策決定が民主党政権でも軌道に乗るのか。政府が関係国と協議を始めるTPPへの今後の対応が、その試金石となる。

「逆らうか」やじ強烈